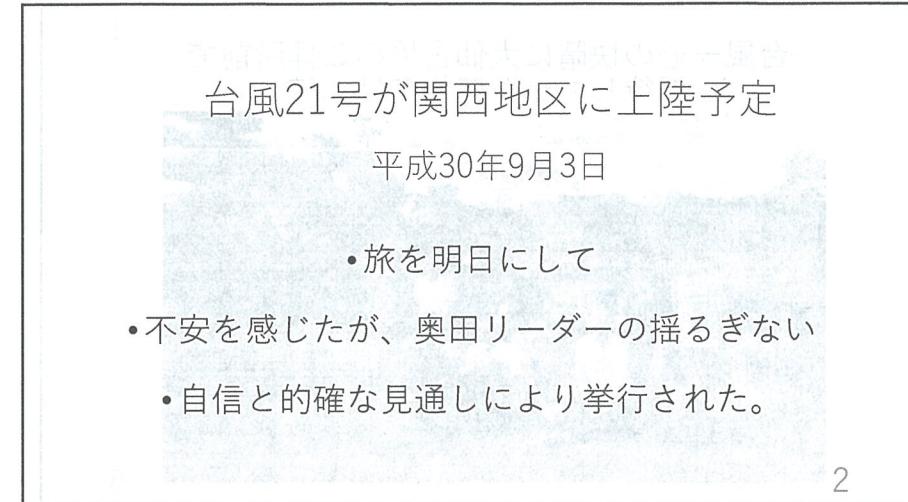


3



4

台風一過の快晴に大仙古墳のご拝所前で
期待していた博物館は休館



5

古墳の呼び方

地元で呼んできたミサンザイ
宮内省の比定名
考古学者の学会での「現履中陵」



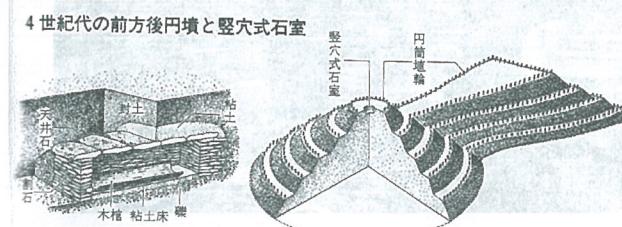
6

- (日本民族の歴史
國立公園人の歴史)
みすゞ奈良・和歌山・奈良の木日
日本古代史
- ・縄文時代 = 1万年前～紀元前3世紀 三内丸山遺跡
(食物採集時代) 平成26年6月3日～5日
 - ・弥生時代 = 紀元前3世紀～3世紀 吉野ヶ里遺跡
(稻作時代) 平成28年7月7日～9日
 - ・古墳時代 = 3世紀～6世紀 飛鳥・古市・百舌鳥
(大規模土木工事時代) 平成30年9月4日～6日
年代はいずれもほぼである。

7

古墳とはなにか

- ・古代の墳墓 3世紀～7世紀ぐらいまでに
- ・盛んに造られた墳丘をもつ墓。
- ・巨大な古墳を大王墓という。前方後円墳が多い



8

大仙古墳の築造（大林組の推計値）

大阪府堺市大仙町 古墳時代中期築造 墳丘長486m

	古代工法	現代工法
工期	15年8ヶ月	2年6か月
従業員数	延6,807,000人 1日当たり2,000人	延29,000人 1日当たり60人
総工費	796億円	20億円

上の表に基付き労働者2000人の支給米推計 小林の推計

家族5人 1日当たり1人消費3合と仮定すると

年間支給米 $3 \times 5 \times 2000 = 30,000 = 30\text{石} \times 365 = 10,950\text{石}$ 9



宮内庁の管理

- ・厳重な管理は反面、古代史研究に大きな妨げになっている。
- ・せめて研究機関の
- ・立ち入りだけでも
- ・解放されると、
- ・望まれる。

11

古墳陵の比定

- ・奈良時代以前の天皇の陵は宮内庁で比定。
- ・比定は江戸期の国学や尊王思想家の蒲生君平
- ・等考証学者の研究を基に明治期に決定された。
- ・基本資料は記、紀、延喜式…（文献考古学）
- ・最近の考古学の進展で矛盾が明らかとなる。
- ・陵は宮内庁の管理で発掘は不可。（発掘考古学）

10

朝日新聞ニュース 2018年11月23日 宮内庁発掘に踏み切る

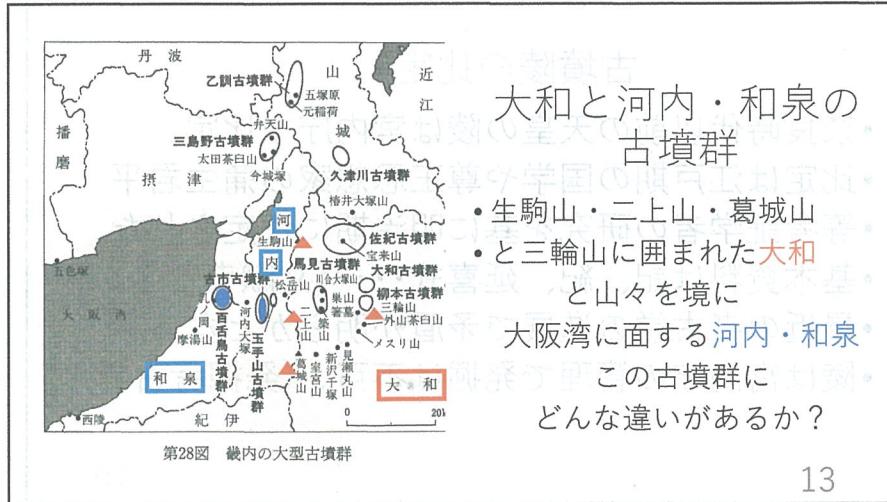
この複数の墓として、宮内庁が朝内閣跡、立ち入りを嚴しく規制してきた。今回の調査は奈良の保全工事に向けた調査情報収集が目的だが、宮内庁が地元自治体と共に発掘したのは初めて。大仙古墳の内側の埋まで立入りを認めないのも事実。調査は、現地を調べてから、石碑を読みだす。そのうち、墳丘に最も近い第1墓や、第2墓、東側の計り難いトレンチなど、10試掘場所を選び、それを撮影した。

「仁徳陵」に埴輪・石敷き

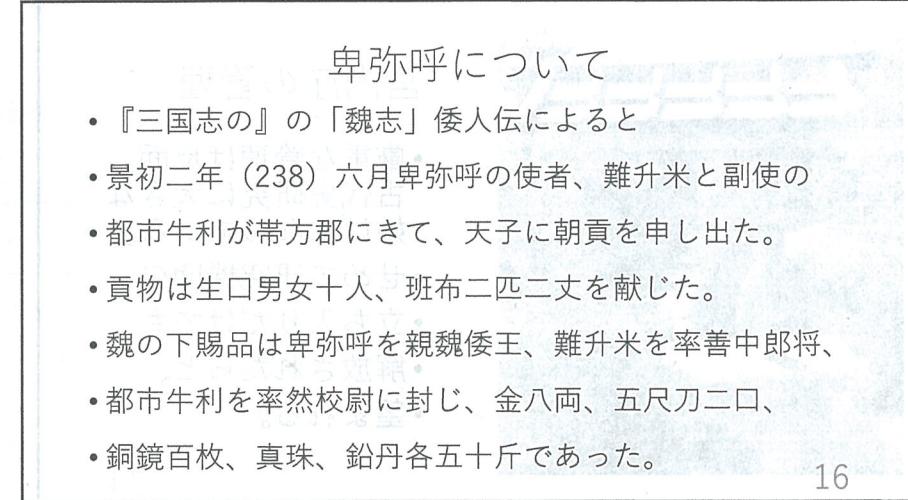
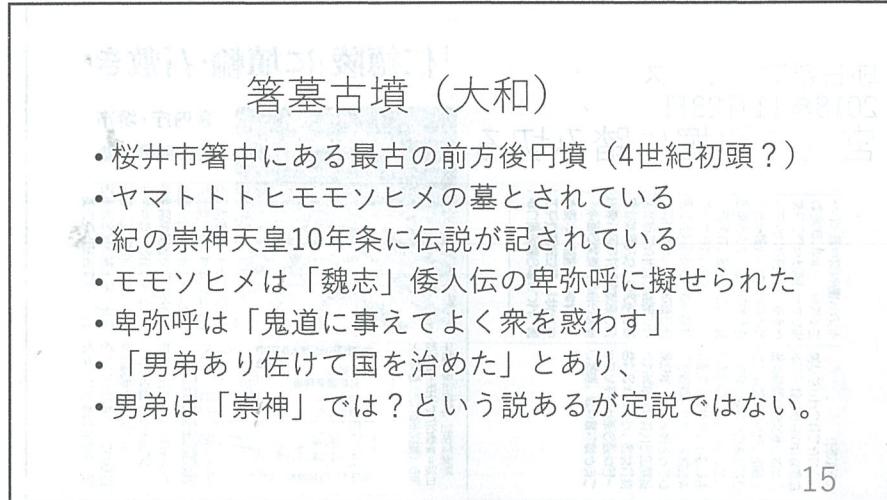
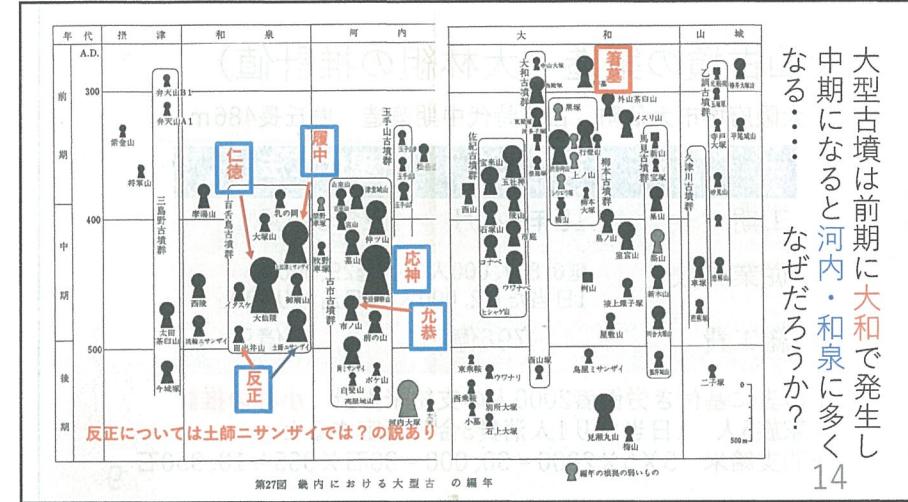
宮内庁・堺市
堤の発掘調査

宮内庁と堺市は22日、国内最大の前方後円墳、大山古墳（伝仁徳天皇陵）で、金長内閣の調査を進めていた。同調査は、奈良の現地を報道陣と同様に公開した。代表者は、田中理恵と、これに並んだ。これまでの大石

大山古墳（伝仁徳天皇陵）の発掘調査で出土した埴輪・石敷き。左は、堺市・堺区・加賀郡美原町の3市町による調査団。右は、1973年の調査地点。第1墓、第2墓、主墓、副墓、石室がある。1973年に円筒埴輪1点が出土



13



卑弥呼の遣使時の 半島情勢

魏と吳は朝貢国誘致合戦をしていた。魏は高句麗と手を結び公孫氏を攻めて滅ぼし樂浪郡・帶方郡回復する。公孫氏は吳と同盟していた。



「宋書」倭国伝 南朝の宗 (420~479)

- 朝貢した倭国王たち……鉄を求めて朝鮮半島へ
- 贊 永所2年（421）と元嘉2年（425）
- 珍 「貢献」安東將軍・倭国王に任せられる。
- 濟 「奉獻」使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓・六国諸軍事・安東將軍・倭国王に徐正王權の範囲が飛躍的に増大したことがうかがえる。

河内・泉の古墳（倭の五王）

漢風諡号	宋書	在位	和風諡号	陵
•15代応神	贊	270~310	オムツケ	誉田御廟山
•16代仁徳	贊・珍	313~399	オオサキ	大仙陵
•17代履中	贊	400~405	オエノイハ	ホカ 上石津ミサザイ
•18代反正	珍	406~410	タジヒニミス	ハワケ 田出井山
•19代允恭	濟	412~453	オサズマワコノスネ	市野山
•20代安康	興	453~456	アナホ	
•21代雄略	武	456~479	オハツセワカタケル	

大型古墳の大和から河内・和泉へ移動理由

- 大和王權が墳墓の地を大阪平野に移したに過ぎない。
 - 王權の基盤は畿内各地の部族連合を基礎とし、その職務分担は必ずしも大王の本貫地の必要はなかった。
 - 大王墓は皇后の出身氏族の氏地に営まれた。
 - 新台頭の河内・和泉勢力が大和の王權の伝統王家と姻戚関係を結びヤマト政権の盟主権を得た。
- 大和に祭祀権が河内・和泉に政治権が分担した。
(魏志倭人伝の卑弥呼と男弟)

朝鮮半島と倭国

- 三世紀の倭国は「魏志」倭人伝に…

卑弥呼・邪馬台国

- 五世紀の倭国は「宋書」倭国伝に…

倭の五王

- 四世紀以降の倭国状況は長い間謎であった。

それが

高句麗広開土王碑に記載されている事が解った。

21

高句麗広開土王碑

王が高句麗の領土拡大に貢献した勲績を銘示

永樂六年（三九六）
由來朝貢新羅是屬民
「百殘年來渡口破百殘以爲臣民」
新羅以為臣民
「百濟文碑化にして新羅を「臣國は倭國の朝鮮半島での軍事行動を伝えている。」
「百殘違誓与和通」
その後「三国史記」に三九七年に百濟王が倭国王と好を結び太子を人質とした。

22

鉄器による農業革命

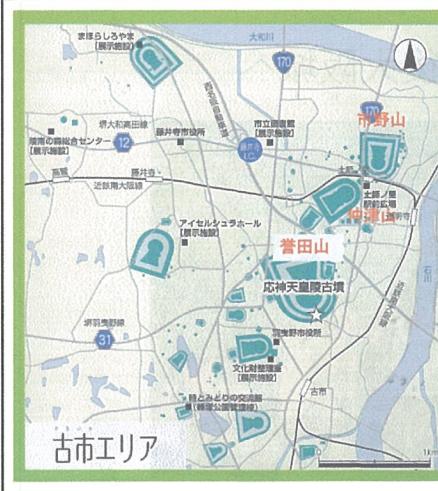
- 古墳時代は武器を含めて石器や木製品が鉄に代わった時代である。鉄製の鋤・鋤の威力は物凄く、
- 大規模な人工水路が大和の纏向で進行し河内では古市大溝が掘削され、古墳の周濠は灌漑に利用された。
- 是によって農業革命が起こり飛躍的に生産が増大する。

23

前方後円墳の副葬品

- 三世紀では鏡・玉・銅鐸・青銅製鉢などの威信材が多い。大和王権は魏の冊封を受け鏡及び爵位の分与で地方への支配力を強化し、倭国連合政権を創った。
- 四世紀になると青銅器から鉄製甲冑・鉄剣・鉄鎌・鉄製農工具に代わり、鉄製武具は大量の兵員確保により韓半島へ出兵を可能にし、鉄製農具は大土木工事と農業の生産性を飛躍的に向上させた。

24



古市古墳

- ・河内古墳群の山寄にある
- ・築造順
- ・仲津山古墳
- ・誉田山古墳（応神陵）
- ・市野山古墳（允恭陵）
- ・築造は古市古墳から始まり百舌鳥古墳群に続く

25



百舌鳥古墳

- ・河内古墳群の海岸寄り
- ・築造順
- ・上石津ミサンザイ（履中陵）
- ・大仙古墳（仁徳陵）
- ・土師ニサンザイ（反正陵？）
- ・大仙陵を築き始めた日、鹿が工事内に入り倒れて死んだ、死因は百舌鳥が耳に入っていた、その場所を百舌鳥の耳原という。

26

葬送儀礼と政権

- ・後円部で葬送儀礼が行われ、祭祀権ある大和の王から政権の継承が確認された。登壇即位（高御座）
- ・周濠は灌漑の為で高度の土木技術を必要とした。
- ・半島との往来も頻繁で海から見える古墳群は葺石が輝き、倭国の隆盛を誇示した。（百舌鳥古墳群）

27

古墳の終末

- ・646（大化2）に薄葬令が発令される。
身分地位に応じ、規模・動員出来る役民の人数・築造日数をさだめる。
この方針は令制に継承されより徹底した。
半島情勢が緊迫する。
- 663（天智2）白村江の敗戦により
大土木工事は朝鮮式山城の築城に移る。
対馬の金田城・大宰府の大野城・岡山の鬼が城等

28

参考書

- 古代を考える「古墳」 白石太一郎 吉川弘文館
- 古墳の時代(後編) 和田 萃 小学館
- 魏志倭人傳・宋書倭國傳 和田 清 岩波文庫
- 後漢・三国時代 金 文京 講談社

29

3つの古墳見学の後大阪城へ



30

法善寺横丁での飲み会



31

利休所縁の南宗寺 も無惨な有様

- この後は大阪組と
- 姫路城見学組に
- 分かれて帰京

